

## 質問 米価下落の懸念に対しては

### 町長 米は基幹作物の主役。JAピンネと連携し維持していく



井向議員

#### 質問

令和元年産米は、消費増税の影響や、新型コロナウイルスの影響による、学校給食の休止、飲食店の営業自粛等による外食需要の減少等、米の消費量は前年より約22万トン減少しており米価の下落が懸念されている。

令和2年産米の出来秋を迎え、基幹作物である水稲の作付農家をどう守っていくのか

#### 答弁

水稲は生育が順調であり、作況も「やや良」となっている。

昨年よりの在庫量が積み重なっている状況で米価の下落が懸念されているが、本町では、需要に応じた高品質な良食味米を生産しており昨年の在庫が無い状態である。令和2年産米は今後の価格の動向を注視しながら、農家の皆さんが安心して米作りができる環境づくりに取り組んでいく。



#### 再質問

米の需要量はこの10年で100万トン減少している。

これから30代、40代の農業者へと耕作面積が集積されていくなかで、米の消費が年々減少していく状況に対しての考えは

#### 答弁

新十津川の米は将来とも新十津川町の基幹産業の主役である。JAピンネと連携して維持していく。

## 質問 ICT活用した魅力ある独自の町づくりを

### 町長 町の課題解決に向け積極的な活用。魅力ある町づくりを目指す。



小玉議員

#### 質問

ICTの整備が全国各地で行われる中、ICTを町のプランドイメージとした魅力ある町づくりにしていく考えは。

#### 答弁

来年度末までに誰もがICTを活用できる環境を整備。スマートフォンとの連携も含め無限大に広がる活用から、町の課題解決、魅力ある町づくりに向け、次期総合計画のなかで検討していく。

#### 再質問

ICTの町づくり課題に、積極的に活用する方と、デジタル環境に消極的な方の二極化がある。行政サービスの均等化の視点から、二極化への対応をどう考えているか。

#### 答弁

少しでもデジタルに触れていただく機会を増やし、その素晴らしさを知っていただくために、社会福祉協議会を中心に高

齢者ICT学習事業を実施。デジタルデバイス(情報格差)が少しでも解消できるよう取り組んでいく。

#### 再々質問

子どもがICTを活用するなかで、様々な情報に触れることが可能となる故の多くのリスクも考えられる。

子どもたちが正しく、有効にICTを活用するための取組みをどのように考えているか。

#### 答弁

子どもがスマートフォンを持つと「歓楽街のご真ん中にある」と同じくらい危険性がある」と表現されている。

使い方を間違うと大変大きなリスクが生じることから、安心、安全な活用に向け、教育委員会、学校、家庭が協力して正しい活用のしかたを指導していく。